

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-219260  
(43)Date of publication of application : 10.08.1999

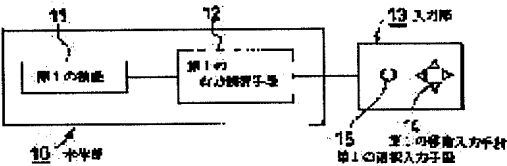
(51)Int.Cl. G06F 3/033  
G06F 3/00  
G06F 13/00

(21)Application number : 10-020605 (71)Applicant : FUJITSU TEN LTD  
(22)Date of filing : 02.02.1998 (72)Inventor : MATSUSHITA NAOTO

(54) OPERATION SYSTEM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an operation system capable of easily operating a WWW (world wide web) perusal device, that is a device for perusing a home page of WWW, one of internet services.  
SOLUTION: This operation system of a WWW perusal device is provided with a first function 11 for accessing a link destination defined in a selected link part when a character or a graph (link part) on a page capable of accessing a different page (link destination) on the internet is selected. The above system is further provided with a first pointer control means 12 for controlling a pointer so as to be moved only to the link part, a first movement input means 14 or moving the pointer and a first selection input means 15 for selecting the pointed link part.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-219260

(43) 公開日 平成11年(1999) 8月10日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	F I
G 0 6 F 3/033	3 8 0	G 0 6 F 3/033 3 8 0 D
3/00	6 5 8	3/00 6 5 8 B
13/00	3 5 4	13/00 3 5 4 D

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願平10-20605

(22) 出願日 平成10年(1998) 2月2日

(71) 出願人 000237592

富士通テン株式会社

兵庫県神戸市兵庫区御所通 1丁目 2番28号

(72) 発明者 松下 直人

兵庫県神戸市兵庫区御所通 1丁目 2番28号

富士通テン株式会社内

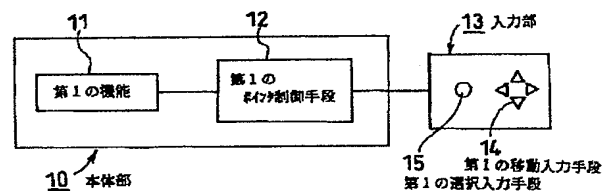
(74) 代理人 弁理士 井内 龍二

(54) 【発明の名称】 操作システム

(57) 【要約】

【課題】 WWW (World Wide Web) 閲覧装置、すなわちインターネットサービスの一つであるWWWのホームページを閲覧する装置の操作を簡単に行なうことのできる操作システムを提供すること。

【解決手段】 インターネット上の別のページ (リンク先) にアクセスすることのできるページ上の文字やグラフィックス (リンク部) が選択されると、選択されたリンク部に定義されているリンク先にアクセスする第1の機能11を備えているWWW閲覧装置の操作システムにおいて、ポインタをリンク部のところにだけ移動させるように制御する第1のポインタ制御手段12と、ポインタを移動させるための第1の移動入力手段14と、ポイントされているリンク部を選択するための第1の選択入力手段15とを装備する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 インターネット上の別のページ（以下、リンク先とも記す）にアクセスすることのできるページ上の文字やグラフィックス（以下、リンク部とも記す）が選択されると、選択されたリンク部に定義されているリンク先にアクセスする第1の機能を備えているWWW（World Wide Web）閲覧装置の操作システムにおいて、ポインタをリンク部のところにだけ移動させるように制御する第1のポインタ制御手段と、ポインタを移動させるための第1の移動入力手段と、ポイントされているリンク部を選択するための第1の選択入力手段と、を備えていることを特徴とする操作システム。

【請求項2】 インターネット上のリンク先にアクセスすることのできるページ上のリンク部が選択されると、選択されたリンク部に定義されているリンク先にアクセスする第1の機能と、ページ上のリストボックスが選択されると、選択されたリストボックスのリストを表示し、かつ表示されたリスト中の項目が選択されると、選択された項目に定義されている内容に基づいた制御を行なう第2の機能と、を備えているWWW閲覧装置の操作システムにおいて、ポインタをリンク部及びリストボックスのところにだけ移動させるように制御する第2のポインタ制御手段と、ポインタを移動させるための第2の移動入力手段と、ポイントされているリンク部、リストボックス、及びリスト中の項目を選択するための第2の選択入力手段と、を備えていることを特徴とする操作システム。

【請求項3】 第1又は第2のポインタ制御手段を稼働させるか否かを選択するための稼働選択入力手段と、該稼働選択入力手段からの情報に基づいて前記第1又は第2のポインタ制御手段の稼働を制御する第1の稼働制御手段と、を備えていることを特徴とする請求項1又は請求項2記載の操作システム。

【請求項4】 車速検出手段を備えた車両内で使用する場合に、前記車速検出手段からの車速情報に基づいて、第1又は第2のポインタ制御手段を稼働させるか否かを制御する第2の稼働制御手段を備えていることを特徴とする請求項1～3のいずれかの項に記載の操作システム。

【請求項5】 インターネット上のページが複数のウィンドウで構成されている場合に、ウィンドウを切り替えるための選択がなされると、該選択に基づいたウィンドウをアクティブにする第3の機能を備えたWWW閲覧装置の操作システムにおいて、ウィンドウを切り替えるための切替入力手段と、該切替入力手段によりウィンドウを切り替える指示がなされると、その度にウィンドウを順次切り替えていくように前記第3の機能を制御する切替制御手段と、を備えていることを特徴とする操作システム。

【請求項6】 インターネット上のページが複数のウィ

ンドウで構成されている場合に、ウィンドウを切り替えるための選択がなされると、該選択に基づいたウィンドウをアクティブにする第3の機能を備えたWWW閲覧装置の操作システムにおいて、

ウィンドウを切り替えるための切替入力手段と、該切替入力手段によりウィンドウを切り替える指示がなされると、その度にウィンドウを順次切り替えていくように前記第3の機能を制御する切替制御手段と、を備えていることを特徴とする請求項1～4のいずれかの項に記載の操作システム。

【請求項7】 インターネット上のページにスクロールバーが存在する場合に、スクロールバーが操作されると、該操作に従ってページの内容をスクロールする第4の機能を備えたWWW閲覧装置の操作システムにおいて、

スクロールバーを選択するためのスクロールバー選択入力手段と、該スクロールバー選択入力手段により選択されたスクロールバーだけを操作可能とする操作制御手段と、操作可能となったスクロールバーをスクロールさせるための第3の移動入力手段と、を備えていることを特徴とする操作システム。

【請求項8】 インターネット上のページにスクロールバーが存在する場合に、スクロールバーが操作されると、該操作に従ってページの内容をスクロールする第4の機能を備えたWWW閲覧装置の操作システムにおいて、

スクロールバーを選択するためのスクロールバー選択入力手段と、該スクロールバー選択入力手段により選択されたスクロールバーだけを操作可能とする操作制御手段と、操作可能となったスクロールバーをスクロールさせるための第3の移動入力手段と、を備えていることを特徴とする請求項1～6のいずれかの項に記載の操作システム。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はWWW閲覧装置の操作システムに関し、より詳細には、インターネットサービスの一つであるWWWのホームページを閲覧する装置の操作システムに関し、例えば、基本ソフト（OS）としてマイクロソフト社製の「ウィンドウズ95」を使用したパソコンに、WWWのホームページを閲覧するためのソフト（ブラウザ）であるマイクロソフト社製の「インターネット・エクスプローラ」が組み込まれた装置の操作システムに関する。

## 【0002】

【従来の技術】 図13は、従来のWWW閲覧装置1の要部を概略的に示したブロック図である。図中2は、装置の本体部、すなわち全体の制御機能を備えたパソコン等を示しており、本体部2には、ディスプレイ3、マウス4、及びモデム5が接続されている。モデム5は電話回

線6に接続されており、電話のアナログデータとパソコンが扱うデジタルデータとを変換するためのものである。

【0003】図13では、電話回線6を使用しているが、ISDN回線を使用することによってデジタルデータをそのまま回線に乗せることもできる。但し、その場合には、モデム5ではなく、TA（ターミナルアダプタ）が必要となる。

【0004】インターネットサービスの一つであるWWWのホームページを見るためのWWW閲覧装置1を操作する場合、図13に示したようにポインティングデバイスの一つであるマウス4を使用するのが一般的である。

【0005】例えば、インターネット上の別のページにアクセスすることのできるページ上の文字やグラフィックス、すなわちリンク部を選択する場合、マウス4の裏面に形成されているボール（図示せず）を動かすことによって、マウスポインタを所望のリンク部に移動させ、そしてマウス4のボタン4aをクリックすることによって前記リンク部を選択している。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記操作では表示の小さなマウスポインタを常に目で追いかけて、正確に所望のリンク部をポイントしなければならず、操作が大変困難になる場合があるといった問題がある。例えば、走行中の車両内で使用する場合には、ディスプレイの画面が小さく、なおかつ振動が生じることもあるので、操作は困難を極め、安全性の確保が難しくなるといった問題が生じる。

【0007】本発明は上記課題に鑑みなされたものであって、WWW閲覧装置、すなわちインターネットサービスの一つであるWWWのホームページを見るための装置の操作を簡単に行なうことのできる操作システムを提供することを目的としている。

【0008】

【課題を解決するための手段及びその効果】上記目的を達成するために本発明に係る操作システム（1）は、インターネット上の別のページ（リンク先）にアクセスすることのできるページ上の文字やグラフィックス（リンク部）が選択されると、選択されたリンク部に定義されているリンク先にアクセスする第1の機能を備えているWWW閲覧装置の操作システムにおいて、ポインタをリンク部のところへ移動させるように制御する第1のポインタ制御手段と、ポインタを移動させるための第1の移動入力手段と、ポイントされているリンク部を選択するための第1の選択入力手段と、を備えていることを特徴としている。

【0009】上記操作システム（1）によれば、選択対象部、すなわちリンク部のところへだけ、ポインタがジャンプするように移動するので、関係のないところ（リンク部以外）にポインタが移動することがなく、使用者

にとってポインタの認識が容易となり、使い勝手が良い。従って、画面の小さなディスプレイであり、振動が生じるような車両内で使用する場合であったとしても、簡単に操作を行なうことができる。

【0010】また、本発明に係る操作システム（2）は、インターネット上のリンク先にアクセスすることのできるページ上のリンク部が選択されると、選択されたリンク部に定義されているリンク先にアクセスする第1の機能と、ページ上のリストボックスが選択されると、選択されたリストボックスのリストを表示し、かつ表示されたリスト中の項目が選択されると、選択された項目に定義されている内容に基づいた制御を行なう第2の機能と、を備えているWWW閲覧装置の操作システムにおいて、ポインタをリンク部及びリストボックスのところにだけ移動させるように制御する第2のポインタ制御手段と、ポインタを移動させるための第2の移動入力手段と、ポイントされているリンク部、リストボックス、及びリスト中の項目を選択するための第2の選択入力手段と、を備えていることを特徴としている。

【0011】上記操作システム（2）によれば、選択対象部、すなわちリンク部及びリストボックスのところにだけ、ポインタがジャンプするように移動するので、関係のないところ（リンク部及びリストボックス以外）にポインタが移動することがなく、使用者にとってポインタの認識が容易となり、使い勝手が良い。従って、画面の小さなディスプレイであり、振動が生じるような車両内で使用する場合であったとしても、簡単に操作を行なうことができる。

【0012】また、本発明に係る操作システム（3）は、上記操作システム（1）又は（2）において、第1又は第2のポインタ制御手段を稼働させるか否かを選択するための稼働選択入力手段と、該稼働選択入力手段からの情報に基づいて前記第1又は第2のポインタ制御手段の稼働を制御する第1の稼働制御手段と、を備えていることを特徴としている。

【0013】上記操作システム（3）によれば、選択対象部のところへだけジャンプするように移動していくポインタを操作するのか、あるいは従来のようにディスプレイの画面全体を自由に移動させることのできるマウスポインタを操作するのかを使用者が自由に選択することができる。

【0014】また、本発明に係る操作システム（4）は、上記操作システム（1）～（3）のいずれかにおいて、車速検出手段を備えた車両内で使用する場合に、前記車速検出手段からの車速情報に基づいて、第1又は第2のポインタ制御手段を稼働させるか否かを制御する第2の稼働制御手段を備えていることを特徴としている。

【0015】上記操作システム（4）によれば、選択対象部のところへだけジャンプするように移動していくポインタを操作するのか、あるいは従来のようにディス

レイの画面全体を自由に移動させることのできるマウスポインタを操作するかを車速情報に基づいて自動的に切り替わるようにすることができるので、例えば、車両走行中には常に前者操作となるように設定しておくことが可能となる。

【0016】また、本発明に係る操作システム(5)は、インターネット上のページが複数のウインドウで構成されている場合に、ウインドウを切り替えるための選択がなされると、該選択に基づいたウインドウをアクティブにする第3の機能を備えたWWW閲覧装置の操作システムにおいて、ウインドウを切り替えるための切替入力手段と、該切替入力手段によりウインドウを切り替える指示がなされると、その度にウインドウを順次切り替えていくように前記第3の機能を制御する切替制御手段と、を備えていることを特徴としている。

【0017】上記操作システム(5)によれば、ウインドウを切り替える、それ専用の切替入力手段の操作を行なうことによって、ウインドウを順次切り替えていくことができる。例えば、前記切替入力手段の操作部として、ボタンが一つだけ形成されているような場合に、そのボタンをクリックする度にウインドウが順次切り替わっていくようにすることができるので、所望のウインドウがアクティブになるまで前記ボタンをクリックするといった簡単な操作で良く、使い勝手が良い。従って、画面の小さなディスプレイであり、振動が生じるような車両内で使用する場合であったとしても、簡単に操作を行なうことができる。

【0018】また、本発明に係る操作システム(6)は、上記操作システム(1)～(4)のいずれかにおいて、インターネット上のページが複数のウインドウで構成されている場合に、ウインドウを切り替えるための選択がなされると、該選択に基づいたウインドウをアクティブにする第3の機能を備えたWWW閲覧装置の操作システムにおいて、ウインドウを切り替えるための切替入力手段と、該切替入力手段によりウインドウを切り替える指示がなされると、その度にウインドウを順次切り替えていくように前記第3の機能を制御する切替制御手段と、を備えていることを特徴としている。

【0019】上記操作システム(6)によれば、ウインドウを切り替える、それ専用の切替入力手段の操作を行なうことによって、ウインドウを順次切り替えていくことができる。例えば、前記切替入力手段の操作部として、ボタンが一つだけ形成されているような場合に、そのボタンをクリックする度にウインドウが順次切り替わっていくようにすることができるので、所望のウインドウがアクティブになるまで前記ボタンをクリックするといった簡単な操作で良く、使い勝手が良い。さらに、上記操作システム(1)～(4)のいずれかの効果も発揮する。

【0020】また、本発明に係る操作システム(7)

は、インターネット上のページにスクロールバーが存在する場合に、スクロールバーが操作されると、該操作に従ってページの内容をスクロールする第4の機能を備えたWWW閲覧装置の操作システムにおいて、スクロールバーを選択するためのスクロールバー選択入力手段と、該スクロールバー選択入力手段により選択されたスクロールバーだけを操作可能とする操作制御手段と、操作可能となったスクロールバーをスクロールさせるための第3の移動入力手段と、を備えていることを特徴としている。

【0021】上記操作システム(7)によれば、所望のスクロールバーだけを操作可能とすることによって、簡単にページ内容をスクロールさせることができるようになるので、従来のように、スクロールバーに形成されている矢印ボタンをクリックしたり、四角形のつまみをドラッグしたりといった細かな操作をしなくても良くなり、使い勝手が良い。従って、画面の小さなディスプレイであり、振動が生じるような車両内で使用する場合であったとしても、簡単に操作を行なうことができる。

【0022】また、本発明に係る操作システム(8)は、上記操作システム(1)～(6)のいずれかにおいて、インターネット上のページにスクロールバーが存在する場合に、スクロールバーが操作されると、該操作に従ってページの内容をスクロールする第4の機能を備えたWWW閲覧装置の操作システムにおいて、スクロールバーを選択するためのスクロールバー選択入力手段と、該スクロールバー選択入力手段により選択されたスクロールバーだけを操作可能とする操作制御手段と、操作可能となったスクロールバーをスクロールさせるための第3の移動入力手段と、を備えていることを特徴としている。

【0023】上記操作システム(8)によれば、所望のスクロールバーだけを操作可能とすることによって、簡単にページ内容をスクロールさせることができるようになるので、従来のように、スクロールバーに形成されている矢印ボタンをクリックしたり、四角形のつまみをドラッグしたりといった細かな操作をしなくても良くなり、使い勝手が良い。さらに、上記操作システム(1)～(6)のいずれかの効果も発揮する。

【0024】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係る操作システムの実施の形態を図面に基いて説明する。図1は、実施の形態に係る操作システム(1)の要部を概略的に示したブロック図である。図中10は、WWW閲覧装置の本体部を示しており、本体部10は第1の機能11と第1のポインタ制御手段12とを含んで構成され、第1のポインタ制御手段12は第1の機能11に接続されている。また、ポインタを移動させるための第1の移動入力手段14とポイントされているリンク部を選択するための第1の選択入力手段15とを含んで構成されている入

10

20

30

40

50

力部13は、第1のポインタ制御手段12に接続されている。

【0025】第1の機能11は、インターネット上の別のページ（リンク先）にアクセスすることのできるページ上の文字やグラフィックス（リンク部）が選択されると、選択されたリンク部に定義されているリンク先にアクセスするものであり、第1のポインタ制御手段12は、ポインタをリンク部のところにだけ移動させるように制御するものである。

【0026】実施の形態に係る操作システム（1）を図2に示したホームページの変化に基づいて説明する。図2は、「日本の主要都市」を紹介するホームページであり、第1のポインタ制御手段12の制御によって、リンク部のところにだけポインタが移動するようになっており、ポイントされているリンク部にはマークMが施されている。リンク部としては「SAPPORO、TOKYO、KYOTO、OSAKA、FUKUOKA」があり、これらリンク部にはそれぞれの都市を紹介するリンク先が定義されている。

【0027】ページ16a、16bには主要都市が記された日本の略図が表示されており、ページ16aには「KYOTO」にマークMが施されており、ページ16bには「TOKYO」にマークMが施されている。ページ16aの状態から、第1の移動入力手段14により「右」操作が行なわれると、マークM（ポインタ）の位置、すなわちポイントされる都市が「TOKYO」に移動する。

【0028】さらに、ページ16bの状態から、第1の選択入力手段15によりオン操作が行なわれると、第1の機能11によってリンク部「TOKYO」に定義されているリンク先にアクセスされ、ページ16cの状態となり東京が紹介される。

【0029】上記実施の形態に係る操作システム（1）によれば、選択対象部、すなわちリンク部のところにだけ、ポインタがジャンプするように移動するので、関係のないところ（リンク部以外）にポインタが移動することがなく、使用者にとってポインタの認識が容易となり、使い勝手が良い。従って、画面の小さなディスプレイであり、振動が生じるような車両内で使用する場合であったとしても、簡単に操作を行なうことができる。

【0030】図3は、実施の形態に係る操作システム（2）の要部を概略的に示したブロック図である。図中20は、WWW閲覧装置の本体部を示しており、本体部20は第1の機能11と、第2の機能21と、第2のポインタ制御手段22とを含んで構成され、第2のポインタ制御手段22は第1の機能11及び第2の機能21にそれぞれ接続されている。また、ポインタを移動させるための第2の移動入力手段24と、ポイントされているリンク部、リストボックス、及びリスト中の項目を選択するための第2の選択入力手段25とを含んで構成されている入力部23は、第2のポインタ制御手段22に接続されている。

【0031】第2の機能21は、ページ上のリストボックスが選択されると、選択されたリストボックスのリストを表示し、かつ表示されたリスト中の項目が選択されると、選択された項目に定義されている内容に基づいた制御を行なうものであり、第2のポインタ制御手段22は、ポインタをリンク部及びリストボックスのところにだけ移動させるように制御するものである。

【0032】実施の形態に係る操作システム（2）を図4に示したホームページの変化に基づいて説明する。図4は、「日本の新聞ニュース」を紹介するホームページであり、第2のポインタ制御手段22の制御によって、リンク部及びリストボックスのところにだけポインタが移動するようになっており、ポイントされているリンク部にはマークMが施されている。リンク部としては、「朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞」があり、これらリンク部にはそれぞれの都市を紹介するリンク先が定義されている。またリストボックスとしては、「日本経済新聞」がある。

【0033】ページ26aの状態では「朝日新聞」にマークMが施されており、ページ26aの状態から、第2の移動入力手段24により「下」操作が2回行なわれると、マークM（ポインタ）の位置、すなわちポイントされる都市がリストボックスである「日本経済新聞」に移動する。

【0034】さらに、ページ26bの状態から、第2の選択入力手段25によりオン操作が行なわれると、第2の機能21によってリストボックスのリスト「日経流通新聞、日経金融新聞、日経産業新聞」が表示され、ページ26cの状態となる。この状態から、第2の移動入力手段24により「下」操作が3回行なわれると、マークMの位置が「日経産業新聞」に移動し、ページ26dの状態となる。

【0035】この状態から、第2の選択入力手段25によりオン操作が行なわれると、第1の機能11によって「日経産業新聞」に定義されているリンク先にアクセスされ、日経産業新聞の掲載記事が紹介される（図示せず）。

【0036】上記実施の形態に係る操作システム（2）によれば、選択対象部、すなわちリンク部及びリストボックスのところにだけ、ポインタがジャンプするように移動するので、使用者にとってポインタの認識が容易となり、使い勝手が良い。従って、画面の小さなディスプレイであり、振動が生じるような車両内で使用する場合であったとしても、簡単に操作を行なうことができる。

【0037】図5は、実施の形態に係る操作システム（3）の要部を概略的に示したブロック図である。図中30は、WWW閲覧装置の本体部を示しており、本体部30は第1の機能11と第1のポインタ制御手段12と第1の稼働制御手段31とを含んで構成され、第1の稼働制御手段31は第1のポインタ制御手段12に接続さ

れ、第1のポインタ制御手段12は第1の機能11に接続されている。

【0038】また、入力部32はポインタを移動させるための第1の移動入力手段14と、ポイントされているリンク部を選択するための第1の選択入力手段15と、第1のポインタ制御手段12を稼働させるか否かを選択するための稼働選択入力手段33とを含んで構成され、第1の移動入力手段14及び第1の選択入力手段15はそれぞれ第1のポインタ制御手段に接続され、稼働選択入力手段33は第1の稼働制御手段31に接続されている。

【0039】また、第1の稼働制御手段31は、稼働選択入力手段33からの信号に基づいて第1のポインタ制御手段12の稼働を制御するものであり、その動作については図6に示したフローチャートに基づいて説明する。

【0040】まずステップ1において、稼働選択入力手段33からの信号を取り込んで、次にステップ2において、取り込んだ信号が第1のポインタ制御手段12を稼働させるように指示する信号（オン信号）であるか否かを判断する。

【0041】オン信号であると判断すれば、ステップ3に移って、第1のポインタ制御手段12を稼働させるように制御し、一方、オン信号であると判断しなければ、ステップ4に移って、第1のポインタ制御手段12を稼働させないように制御する。上記実施の形態に係る操作システム（3）によれば、選択対象部のところにだけジャンプするように移動していくポインタを操作するのか、あるいは従来のようにディスプレイの画面全体を自由に移動させることのできるポインタを操作するのかを使用者が自由に選択することができる。

【0042】図7は、実施の形態に係る操作システム（4）の要部を概略的に示したブロック図である。図中40は、WWW閲覧装置の本体部を示しており、本体部40は第1の機能11と第1のポインタ制御手段12と第2の稼働制御手段41とを含んで構成され、第2の稼働制御手段41は第1のポインタ制御手段12に接続され、第1のポインタ制御手段12は第1の機能11に接続されている。

【0043】また、入力部13はポインタを移動させるための第1の移動入力手段14とポイントされているリンク部を選択するための第1の選択入力手段15とを含んで構成され、入力部13は第1のポインタ制御手段12に接続されている。

【0044】また、第2の稼働制御手段41は車速検出手段42に接続されており、車速検出手段42から検出される車速 $v$ に基づいて第1のポインタ制御手段12の稼働を制御するものであり、その動作を図8に示したフローチャートに基づいて説明する。但し、ここでは車速 $v$ が20km/h以上（緩衝領域として5km/hを設定）とな

るときに、第1のポインタ制御手段12が稼働するものとする。

【0045】まずステップ11において、車速検出手段42より車速 $v$ を取り込んで、次にステップ12において、車速 $v$ が20km/h以上であるか否かを判断する。20km/h以上であると判断すれば、ステップ13に移って、第1のポインタ制御手段12を稼働させるように制御し、そしてステップ14に進む。一方、20km/h未満であると判断すれば、ステップ11に戻る。

【0046】ステップ14では、車速検出手段42より車速 $v$ を取り込んで、次にステップ15において、車速 $v$ が15km/h未満であるか否かを判断する。15km/h未満であると判断すれば、ステップ16に進んで、第1のポインタ制御手段12を稼働させないように制御し、一方、15km/h以上であると判断すれば、ステップ14に戻る。

【0047】上記実施の形態に係る操作システム（4）によれば、選択対象部のところにだけジャンプするように移動していくポインタを操作するのか、あるいは従来のようにディスプレイの画面全体を自由に移動させることのできるポインタを操作するのかを車速情報に基づいて自動的に切り替わるようにすることができる。

【0048】上記実施の形態に係る操作システム（3）又は（4）では、第1のポインタ制御手段12の稼働を制御する場合について説明しているが、同様に第2のポインタ制御手段22の稼働を制御するようにできることは言うまでもない。

【0049】図9は、実施の形態に係る操作システム（5）の要部を概略的に示したブロック図である。図中50は、WWW閲覧装置の本体部を示しており、本体部50は第3の機能51と切替制御手段52とを含んで構成され、切替制御手段52は第3の機能51に接続されている。また、入力部53はウインドウを切り替えるための操作部としてボタンが形成されている切替入力手段54を含んで構成され、入力部53は切替制御手段52に接続されている。

【0050】第3の機能51は、ウインドウを切り替えるための選択がなされると、該選択に基づいたウインドウをアクティブにするものであり、切替制御手段52は、切替入力手段54のボタンがクリックされる度にウインドウを順次切り替えていくように第3の機能51を制御するものである。

【0051】実施の形態に係る操作システム（5）を図10に示したホームページの変化に基づいて説明する。図10に示したページ55a～55dは、複数のウインドウ $W_1$ ～ $W_3$ で構成されている。ページ55aの状態では、ウインドウ $W_1$ がアクティブであるが、切替入力手段54のボタンがクリックされることによって、アクティブなウインドウが $W_2$ 、 $W_3$ 、 $W_1$ と切り替わっていく。

【0052】上記実施の形態に係る操作システム(5)によれば、切替入力手段54の操作部として、ボタンが一つだけ形成されているような場合、前記ボタンをクリックする度にウインドウが順次切り替わっていくようになるので、所望のウインドウがアクティブになるまで前記ボタンをクリックするといった簡単な操作で良く、使い勝手が良い。従って、画面の小さなディスプレイであり、振動が生じるような車両内で使用する場合であったとしても、簡単に操作を行なうことができる。

【0053】図11は、実施の形態に係る操作システム(6)の要部を概略的に示したブロック図である。図中60は、WWW閲覧装置の本体部を示しており、本体部60は第4の機能61と操作制御手段62とを含んで構成され、操作制御手段62は第4の機能61に接続されている。また、入力部63はスクロールバーを選択するための操作部としてボタンが形成されているスクロールバー選択入力手段64と、操作可能となったスクロールバーをスクロールさせるための第3の移動入力手段65とを含んで構成され、入力部63は操作制御手段62に接続されている。

【0054】第4の機能61は、スクロールバーが操作されると、該操作に従ってウインドウの内容をスクロールするものであり、操作制御手段62は、スクロールバー選択入力手段64のボタンをクリックされる度に操作可能となるスクロールバー(ウインドウも含む)を順次切り替えていくように制御するものである。

【0055】実施の形態に係る操作システム(6)を図12に示したホームページの変化に基づいて説明する。図12に示したページ66a~66eは、ウインドウWとその右端及び下端に存在するスクロールバーS<sub>1</sub>、S<sub>2</sub>とから構成されている。ページ66aの状態では、ウインドウWが操作可能な状態(斜線部)となっているが、スクロールバー選択入力手段64のボタンをクリックされることによって、操作可能となるものがスクロールバーS<sub>1</sub>と切り替わる(ページ66b)。さらにクリックされることによって、操作可能なものがスクロールバーS<sub>2</sub>(ページ66c)、そしてウインドウWへと切り替わっていく(ページ66d)。

【0056】スクロールバーS<sub>2</sub>が操作可能となったページ66cの状態から、第3の移動入力手段65の「右」操作を行なうことによって、ウインドウWの内容が右へスクロールされ、ページ66eの状態となる。

【0057】上記実施の形態に係る操作システム(6)によれば、所望のスクロールバーだけを操作可能とすることによって、簡単にウインドウWの内容をスクロールさせることができるようになるので、従来のように、ス

クロールバーに形成されている矢印ボタンをクリックしたり、四角形のつまみをドラッグしたりといった細かな操作をしなくても良くなり、使い勝手が良い。従って、画面の小さなディスプレイであり、振動が生じるような車両内で使用する場合であったとしても、簡単に操作を行なうことができる。

【0058】また、上記実施の形態(1)~(6)のいずれかで示した第1の移動入力手段14、第2の移動入力手段24、及び第3の移動入力手段65等として、従来から使用されているマウスを用いることができることは言うまでもない。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態に係る操作システム(1)の要部を概略的に示したブロック図である。

【図2】ホームページの変化を示した概略図である。

【図3】実施の形態に係る操作システム(2)の要部を概略的に示したブロック図である。

【図4】ホームページの変化を示した概略図である。

【図5】実施の形態に係る操作システム(3)の要部を概略的に示したブロック図である。

【図6】実施の形態に係る操作システム(3)における第1の稼働制御手段の動作を示したフローチャートである。

【図7】実施の形態に係る操作システム(4)の要部を概略的に示したブロック図である。

【図8】実施の形態に係る操作システム(4)における第2の稼働制御手段の動作を示したフローチャートである。

【図9】実施の形態に係る操作システム(5)の要部を概略的に示したブロック図である。

【図10】ホームページの変化を示した概略図である。

【図11】実施の形態に係る操作システム(6)の要部を概略的に示したブロック図である。

【図12】ホームページの変化を示した概略図である。

【図13】従来のWWW閲覧装置の要部を概略的に示したブロック図である。

#### 【符号の説明】

1 WWW閲覧装置

2、10、20、30、40、50、60 本体部

3 ディスプレイ

4 マウス

4a ボタン

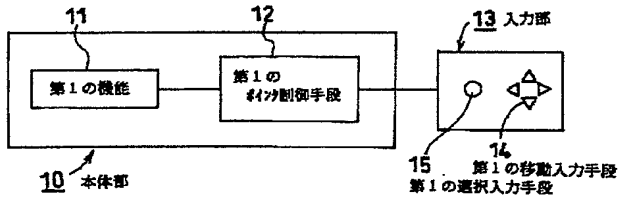
5 モデム

6 電話回線

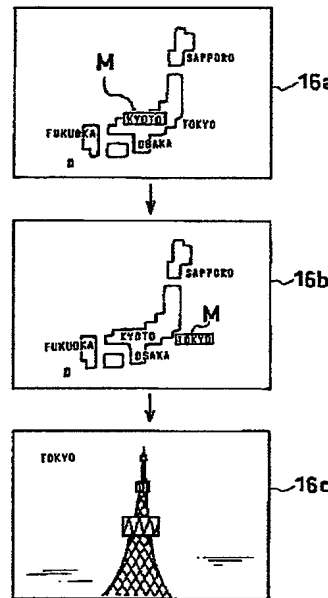
13、23、32、53、63 入力部



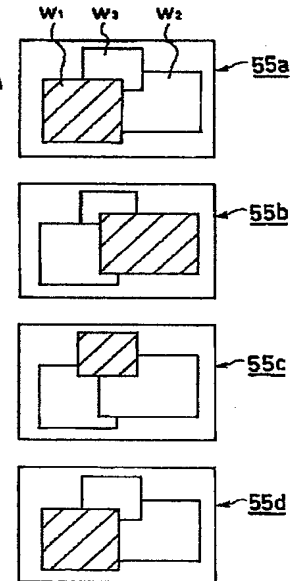
【図01】



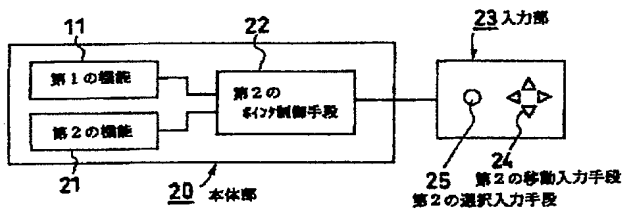
【図02】



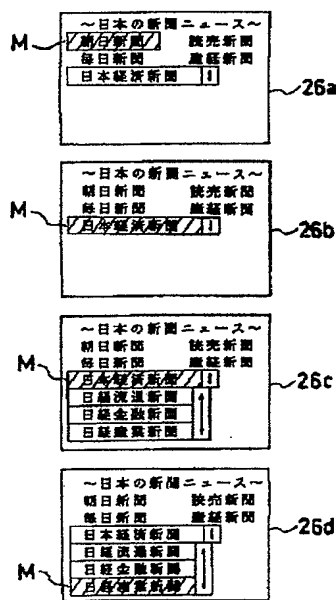
【図10】



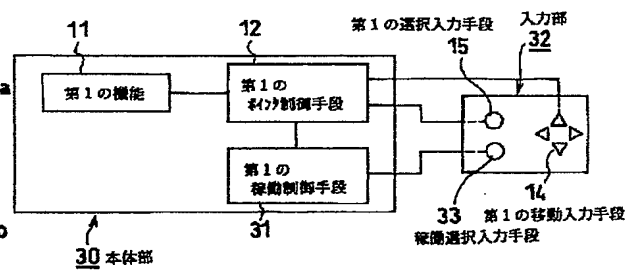
【図03】



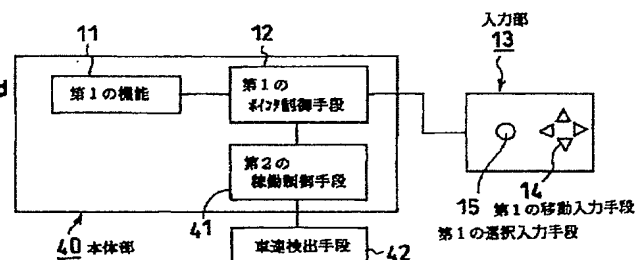
【図04】



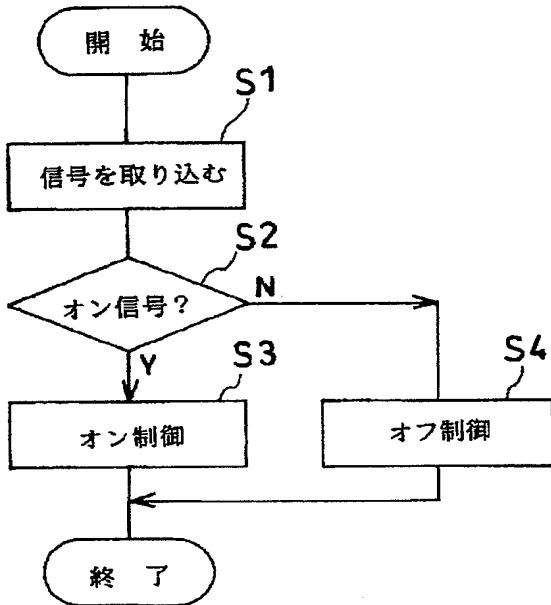
【図05】



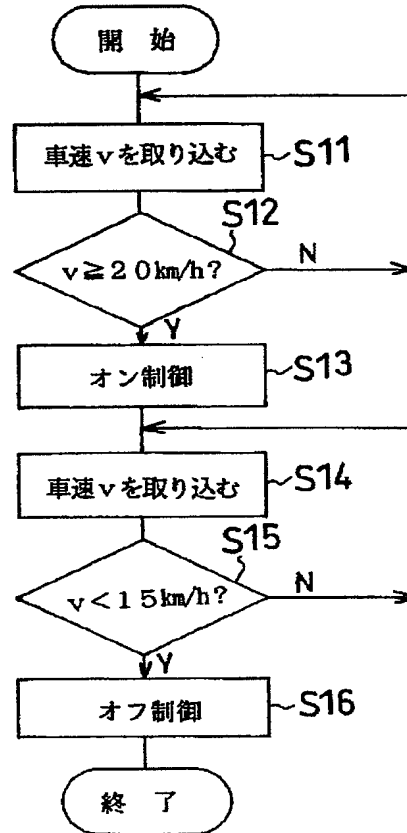
【図07】



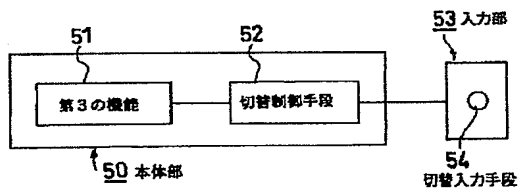
【図06】



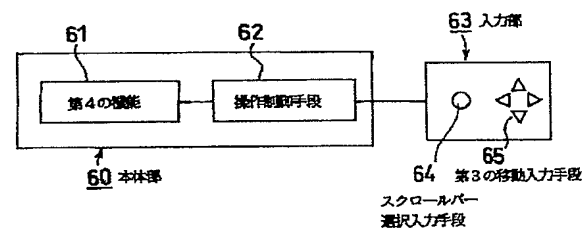
【図08】



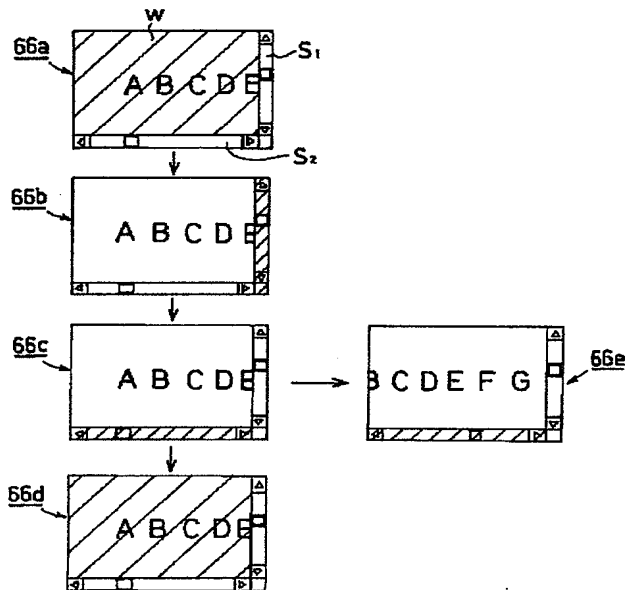
【図09】



【図11】



【図12】



【図13】

